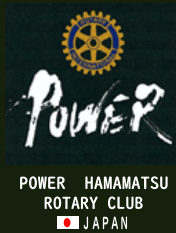


国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

新しい流れを、知恵を集めて

RI 会長 シェカール・メータ/第 2620 地区ガバナー 小林聡一郎 /会長 高貝 亮 /幹事 山下俊彦
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002 年 10 月 22 日 認証伝達式：2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ：浜松中 R C



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



第860回例会7月27日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会：鷺津有一 青山素久 ■点鐘：高貝 亮 ■週報：内田勝善
- ロータリーソング：「希望のエナジー」（※音楽のみ）
- ゲスト：国際ロータリー第 2620 地区 2021-22 年度ガバナー 小林聡一郎様
同 地区幹事 中尾 均様
同 ガバナー補佐 石津匡美様
米山記念奨学生 陳俊達さん

出席報告/スマイル報告

会員数 75 名 (内出席免除会員 1 名)
出席数 60 名 出席率 81.08%

スマイル提出者氏名掲載
高貝会長・山下幹事、小澤邦比呂さん、原田道子さん、堀内善弘さん

会長挨拶



皆様、おはようございます。本日は第 2620 地区小林ガバナーに公式訪問をいただきありがとうございます。また、中尾地区幹事様、静岡第 5 グループの石津ガバナー補佐様にもお越しいただいております。早朝より遠路お越しいただき、誠にありがとうございます。小林ガバナーからは、後ほどお話を伺えることを楽しみにしております。

さて東京オリンピックが始まりました。緊急事態宣言のさなかでの開催には様々な批判もありますが、世界中からアスリートが集まってきて競うこと自体は大変素晴らしいことです。また、色々な国の人々に接することで、国際理解も進むこととなります。開会式の入場行進をみて選手の出身国に思いを馳せることだけでも意義があったと思います。

今朝の朝刊にはいずれも磐田市出身の卓球混合ダブルス水谷・伊藤ペアの金メダル獲得が大きく取り上げられていました。身近に感じられる選手が活躍されるのも大変嬉しいことです。

柔道では 7 月 25 日の日曜日、阿部兄妹がそろって金メダルをとる活躍をされ話題になりました。兄の阿部一二三選手が 66 キロ級の準決勝で対戦したのはブラジルのダニエル・カルグニンさんでした。阿部選手には敗れましたが、その後見事に敗者復活戦で勝って銅メダルを獲得されました。

ブラジルの選手団は 7 月前半に来日し、THE HAMANAKO に宿泊して、雄踏総合体育館で事前合宿をされており、リモートでしたが城北小学校の小学生たちとも交流会ができました。

カルグニン選手は、右胸に漢字で「家族」と書かれたタトゥー（いれずみ）を入れています。マジックで書かれたようなゴシック体のタトゥーでちょっとユーモラスに感じられるところもありますが、漢字の意味がわかる私たちにとっては、家族を大切にしたい気持ちを感じて温かい気持ちになりました。実際、試合後のインタビューでまっ先に何をやりたいかと聞かれて、「お母さんに電話したい」と答えていたぐらいに家族思いの選手ではありますが、かつてのインタビューでは、こんなことを言っていました。

個人競技の選手は一人ではない。スポンサーやクラブチーム、コーチ、ドクター、すべてのスタッフはみんな家族のような存在であって、あなたを助けてくれる。

支えてくれる周りのみんなに対する感謝の気持ちを知り、また、感激しました。

日本は、いれずみはヤクザの象徴だった時代が長く、いれずみが入っていると銭湯にも入れませんが、オリンピックの選手を見ると、スケートボードの選手など入れ墨を普通に入れている選手がたくさんいます。オリンピック

の経験を通じて、日本がタトゥーを含めた各国の文化にも寛容な社会になっていくといいなと思いました。

幹事報告

- ① 7月6日に実施させていただきました「熱海市豪雨災害支援募金」につきまして国際ロータリー第2620地区熱海豪雨災害支援本部から中間報告が届きました。
この度の熱海豪雨災害支援につきましては、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。7月14日現在、RID2620 熱海豪雨災害支援金は日本国内 18 地区、地区内 18RC、米山学友会募金の合計 23,439,191 円寄せられております。支援金受付は 7 月 30 日(金)までです。引き続きご支援・ご協力を、お願い申し上げます。
- ② 前年度ガバナー事務所より小冊子2冊とDVDが届きました。
第2680地区発行の小冊子2冊
2018-19年度「会員増強物語～ベスト60人の心～」1冊
2020-21年度「会員維持増強物語～ロータリアンでよかった～」1冊
前年度地区大会実行委員より地区大会DVD1枚です。
貸し出し可能です。興味のある方は、事務局までお問い合わせください。

委員会報告

- 地区プログラム委員会 小澤邦比呂さん
7月24日(土)静岡商工会議所において、小林ガバナー・中尾地区幹事にご出席いただき、地区青少年交換委員会が開催されました。
次年度青少年交換事業再開に向けてのスケジュール、ルール、仕組み作り、原点に戻ることの重要性などを確認いたしました。
- 職業奉仕部会長 松島弘明さん
オールパワーで9月の職場訪問例会の訪問先一覧表を送付させていただきます。ご確認よろしく申し上げます。

議事



- ガバナー公式訪問
国際ロータリー第2620地区
ガバナー 小林聡一郎（甲府北RC）

共存の中にこそ自分を生かす道がある

私たちはクラブをかけがいのない場と思い、例会を友愛や学びの場として尊く思ってきました。そして互いを思いやりながら、その心を地域や世界に向けて視野を広げ、活動を広げてきました。日本的な感性でそのようなロータリーを形成し発展させてきたのだと思いますが、日本という風土に見事に適合したロータリーだと思

います。

一方世界的には、奉仕活動を主体にロータリーを考える傾向にあり、ロータリー財団のポリオ根絶を始めとする取り組みのように、より多くの会員でより大きな奉仕活動を目指すこととなります。実際世界では、それだけ多くのニーズが存在し、ロータリアンの支援を必要としていることも現実です。

ロータリーには最高絶対の単一概念が存在しません。常に「奉仕と親睦」「利己と利他」のように相対的に考えることを要求されますので、一つに決めつけるのではなく、日本的感性のロータリーと奉仕活動の世界のロータリーとを、どのように考えるのかということになります。

でもこれは今の私たちにとっては、相反することではありません。どちらか一方のロータリーしかないのではなく、その両方のバランスを上手にとりながらクラブに軸足を置いて、地域や世界で奉仕活動をしているという姿ではないでしょうか。当然クラブや例会を自己研鑽の機会と捉えてもいるでしょうし、人格形成の場ともしているでしょう。そしてそういう自分を他者のために活かすことも大きな使命とと思っているのだと思います。一人では生きられない共存の中にこそ自分を生かす道があるということだと思

RI 会長テーマ「SERVE TO CHANGE LIVES」

今年度のシェカール・メータ RI 会長はテーマに「SERVE TO CHANGE LIVES 奉仕しよう—みんなの人生を豊かにするために」を掲げられました。そしてキーワードは「GROW MORE DO MORE」で、若い世代と女性をロータリーに迎え入れて会員基盤を強くし、人々の人生が豊かになるよう奉仕活動をしましょう、と要請されました。世界的なニーズに応えるロータリーの傾向に合致した年度テーマだと思

います。地区においてクラブにおいてこの要請をどのように具現化するのかということで、会員基盤の強化については私なりの取組方策を提示させていただき、ロータリー奉仕デーについては各クラブに計画・実施していただくこととしております。会長始め会員皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

Online で新たなつながりを

ワクチン接種が進んでいるとはいえコロナ禍で視界不良のクラブ運営になりますのでご苦労されると思いますが、クラブに軸足を置いた例会と奉仕活動のバランスを上手にとり、会員相互の連携を強め、地域や世界で奉仕活動をしてくださるようお願いいたします。

コロナ禍を経験した私たちは、online での新たな繋がり方を手に入れました。Online 開催の地区 RLI は何回もの実績を礎として、全国的にもトップクラスと高評価されていますし、各クラブにおいてもハイブリット例会や online 例会なども行われています。窮屈で不自由なコロナ禍でも人と人との繋がりには有効な方法ですので活用いただきたいと思います。

ロータリー未来形成 (Shaping Rotary's Future)

今年初めに RI は「未来形成 (SRF)」という新たなプラン概要を提示しました。主には 2030 年から始める管理方法改革のためのプランで、2022 年 4 月の規定審議会での審議対象になると言われています。現在分っているのはここまでで、これから提示に対しての意見を取り入れながら形成されていくことですから、具体的にどのようなものになるのかは現状でははっきりしません。しかしこのようなロータリーの未来に向けての取り組みが始まっていることだけはご承知置きいただきたいと思います。今年度これがどのように動き、地区としてどのように対処していくのかも手探り状態ですが、将来の地区にとって不利にならないような検討だけはしていかなければならないと思っています。

クラブ会長、幹事を始め、会員の皆さまと一緒に、本年度の第 2620 地区が「GROW MORE DO MORE」出来よう、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

